価値創造の歩み

タツタ電線グループは、インフラを支える電線・ケーブル、モバイル端末に使用される機能性フィルム等によって、様々な社会課題を解決してきました。当社グループは今後も顧客ニーズに応える製品を提供していきます。

時代背景

電力需要の増大	公害問題	ハイテクノロジー産業の発展	モバイル機器の小型化・軽量化	産業機器の進化・高度化	サイバー空間と現実空間の高度な融合 循環型社会への挑戦

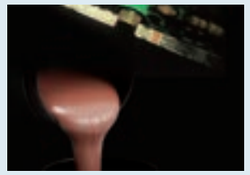
社会課題に対する製品・サービス

電力用電線・ケーブル

環境分析

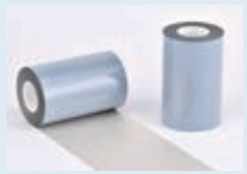
ボンディングワイヤ

漏水検知器


導電性ペースト

電磁波シールドフィルム

FA・ロボット用ケーブル


車載向け電磁波シールドフィルム

▼ 1947 年　▼ 1953 年　▼ 1977 年　▼ 1980 年代　▼ 1990 年代　▼ 2000 年代　▼ 2010 年代　▼ 2020 年代

タツタ電線グループの歴史

電線の一貫生産体制の確立

1945年、辰巳卯三郎・多屋良三によって設立。2年後、溶銅から伸線までの一貫生産体制を整えました。

当時の電線の製造作業

若江工場(現 大阪工場)の建設

電線の生産基盤強化のため若江工場(現 大阪工場)を建設しました。当初は、ビニル電線、綿・ゴム線や通信ケーブルを製造、高度経済成長期の旺盛な需要に対応しました。

建設着工当時の若江工場

環境分析事業の開始

公害が社会問題となるなか、当社は大気・水質・土壌の濃度測定を行う環境分析事業を開始しました。その後、同事業は株式会社タツタ環境分析センターに引き継がれました。

当時の環境分析の様子

非電線分野への進出

当社はエレクトロニクス関連分野にも進出しました。漏水検知器、ボンディングワイヤや導電性銅ペースト等の製品を開発しました。

当時の漏水検知器

当時の
ボンディングワイヤ

当時の
導電性銅ペースト

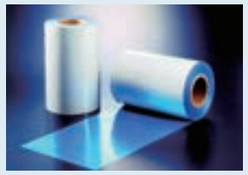
電線の生産体制の効率化

1990年代当時の最新鋭の電線製造設備を導入しました。自動化が進み、生産性が向上しました。

導入した電線製造設備

電磁波シールドフィルムの販売開始

電子機器回路に発生する電磁波対策が求められていました。電磁波に対して優れた特性を持つ導電性銅ペーストを用いて電磁波シールドフィルムを開発しました。


当時の電磁波シールドフィルム

生産・開発体制の強化

生産能力強化のため、タツタテクニカルセンターと仙台工場を新設しました。また、エレクトロニクス電線の専門メーカーである立井電線株式会社(現 タツタ立井電線株式会社)を子会社化しました。

タツタテクニカルセンター

仙台工場

立井電線株式会社
(タツタ立井電線株式会社)

市場対応力の強化

社会の変化をとらえた事業機会を獲得するため、電線・ケーブル事業の営業体制を一本化。電磁波シールドフィルムの価値を再定義し、WILMINA®ブランドを発表しました。

新本社(2019年完成)